

# 華人経済 経営研究

～彼れを知らず己れを知らざれば戦う毎に必ず殆うし～

中国本土からアジア地域、そして世界にまで活動範囲を拡大するチャイニーズ。彼らのビジネスに対する考え方や習慣は日本人からすると異質にして独特で、理解しづらいものだといわれている。チャイニーズを総合的に「華人」ととらえ、彼らの多様な伝統文化と長い歴史から導き出された経営思想、心理と行動を体系的に分析し、華人圏や中国への進出に伴う総合的なノウハウを学び合う関西日本香港協会のみなさんの研究の成果を紹介する。

## 香港華人経営者との

## 交流・関係 (GUANXI) の構築へ

### 中間人のおかげで 熟人⇓自己人に

#### Ms S の来日

この5月に香港からK社のSさんがやって来た。彼女は久しぶりの日本なので、台湾に居る従姉妹たちとこの大阪で合流し、1週間大阪・京都・奈良を満喫する予定。しかし彼女はみんなより1日早く来日。その理由は「サカイノサンに会うため」。うれしいかぎりです。

当日はピーチ航空にて早朝5時25分に関西国際空港到着予定(実際には40分遅延)。出迎えるのに遅れるわけにはいかない。私は万全を期するために近くのスターゲイトホテルに前泊しました。Sさんは、K社のオーナー女性経営者Wさんの息子(K社2番手)A

さんの奥さんである。平日早朝のため、まず大阪木津卸売市場に連れて行き日本の食材を見せ、大阪のおばちゃんと言ひ、お寿司をこ馳走。その後は当社ゴルフデンケリー、大阪城、デパートほか見学。梅田にてのディナーまでのフルコースの1日でした。彼女も楽しんでいきました。Wさん家族の自己人(身内)の私としては、うまくおもてなしができたかな。一安心。

#### C M M Sとの出会い

私が華人経営者の学習講座C M M S (Chinese Management & Marketing School)に出会ったのは、今から6年前。同業の会社の女性取締

役Iさんに「あなたこの講座に申し込まなきや駄目よ」と背中をドンと強く押されたのを今でも覚えています。この講座では4つのパラダイム、儒教・兵法(孫子・三十六計)・華人ネットワーク・国情を学習します。そしてこれらをベースにして華人経営を読み解いていくのです。

学習していくうちにいくつも重要なキーワードが出てきます。地縁・血縁・業縁ほか、つながりの公、中間人・外人・熟人・自己人、送礼物(贈り物)、GUANXI(関係)、人情面子。講座が進むにつれ華人と日本人の根本的な考え方の違い、本当に驚かされたのです。

この時すでにWさんの自分の人(互いの相手の自己人)だったのです。中間人というのは初めてBさんとDさんが出会う時、両者が信頼している中間人Cさんが紹介すれば一安心。これは、疑い深い華人の知恵なのです。こうして私はIさんとK社のWさんを頼り、香港を通しての輸出を模索することとなったのです。



【境野 由紀夫(さかいの ゆきお)】  
ゴールドエンケリーパテント香料株式会社取締役。関西香港協会理事、関西和僑会副会長。玉川大学工学部電子工学科卒。メーカー営業を経て、1994年に現在の会社の東京支社営業に転職(大阪に本社・工場)。2003年代表取締役就任、現在に至る。会社は業界では歴史があり、食品香料の製造販売。特にスウィーツ・ペーカリー・調味料系使用の香料に特色有り。  
【ゴールドエンケリーパテント香料株式会社】<http://www.goldenkely.co.jp/>

#### 送礼物(贈り物)

「来る時にWさんへのおみやげをお願いね。Iさんはそう言いました。聞きながらおみやげを用意し渡すと、帰る時にもっと高価なという物を渡されま

す。この贈り物(おみやげ)のやりとりが重要で、相手人が礼儀をわきまえているのか、贈ったものの価値が分

かる相手なのか、要するにも信頼関係にある。この最初のWさんとの出会いがこのような形であったというのは、私にとっては幸運でした。つまりIさんは、抜

群なWさん家族と私との中間人(互いの相手の自己人)だったのです。中間人というのは初めてBさんとDさんが出会う時、両者が信頼している中間人Cさんが紹介すれば一安心。こ

ろ紹介はされていきました。私はIさんと共に出席し、盛大な宴を楽しみました。お開きの後、2次会にも招待されIさんと行くと2テーブルはすべてWさんの幼なじみと学友でした。その中に私とIさん2人だけ日本人。でも楽しかった。2次会を途中で抜け、新郎新婦にタクシーに乗るまで送ってもらった時、新郎のAさんが、「サカイノサンは、いつでもウェルカム」(このシリーズは2カ月に

#### 自己人(一家人、身内)

私は2011年11月20日の香港人の女性経営者Wさんの息子Aさんの結婚披露宴に呼ばれました。お相手はすでにK社で働いていたSさん。私ももう1年前からの紹介はされていきました。私はIさんと共に出席し、盛大な宴を楽しみました。お開きの後、2次会にも招待されIさんと行くと2テーブルはすべてWさんの幼なじみと学友でした。その中に私とIさん2人だけ日本人。でも楽しかった。2次会を途中で抜け、新郎新婦にタクシーに乗るまで送ってもらった時、新郎のAさんが、「サカイノサンは、いつでもウェルカム」(このシリーズは2カ月に

#### 終わりに

東日本大震災の時、国内の原料が手薄となり当社の製品もこのままでは製造が出来なくなるかも、という事態になった時、香港のIさん、Wさんに即連絡。あつという間にシンガポールから回してくれました。もしかしたら、この時すでに自己人(身内)だったのかも。現在K社からは原料の輸入をしており、年に最低1回は香港で会って食事をしています。